

令和3年度保護林モニタリング調査結果一覧表

NO.	計画区	名称	保護林区分	保護林番号	面積(ha)	実施間隔(年)	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	5年の要素	ニホンジカ	病虫害(ナラ枯れ)	備考
							H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13				
1	磐城	阿武隈高地	生物群集保護林	群集 2	1,189.84	5	○					○					○					○	○	○	○	前回調査(H28)では確認されていなかったナラ枯れ被害が確認されており、保護林内及び保護林周辺の被害状況に留意しながらモニタリングを継続していく必要がある。 ナラ枯れ被害については調査プロットや保護林の周辺にまで被害が見られることから、UAV撮影等を活用し、面的な被害の広がりをモニタリングしていく必要がある。
2		赤井岳ヒノキ遺伝資源	希少個体群保護林	希少 1 0	10.55	5	○					○					○					○	○	○	○	保護対象種であるヒノキについては概ね健全に生育しており、次世代を担うヒノキの稚樹や実生も確認された。保護林内にナラ枯れ被害が確認されたため、被害状況に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
3		木戸川コナラ	希少個体群保護林	希少 1 1	108.23	5	○					○					○					○	○	○	○	保護林内のコナラ林についてはモミ林へと遷移が進行しつつある状況であったが、次世代を担うコナラの稚樹も確認された。前回調査(H28)では確認されていなかったナラ枯れ被害が確認されており、保護林内及び保護林周辺の被害状況に留意しながらモニタリングを継続していく必要がある。
4		津島マツ遺伝資源	希少個体群保護林	希少 1 2	3.43	10	[資料]	H22以降未実施					○										○			
5	吾妻	黒斑山カラムツ	希少個体群保護林	希少 4 6	75.80	10	○					○										○				保護対象種のカラムツに鳥獣害や病虫害は確認されず、枝先枯損のある個体が僅かに散見されるが、概ね健全に生育している。なお、次世代を担うカラムツの実生や稚樹が確認されていないため、今後の遷移の動態に留意しながらモニタリング調査を継続することが適当である。
6		万座カラムツ	希少個体群保護林	希少 4 7	22.96	10	○					○										○				保護対象種のカラムツに鳥獣害や病虫害は確認されず、枝先枯損のある個体が僅かに散見されるが、概ね健全に生育している。なお、次世代を担うカラムツの実生や稚樹が確認されていないため、今後の遷移の動態に留意しながらモニタリング調査を継続することが適当である。
7	埼玉	秩父山地	生物群集保護林	群集 1 4	2,145.46	5	○					○					○					○	○	○		植生調査による低木層及び草本層の植被率が全てのプロットで減少傾向にあり、ニホンジカによる採食圧が高くなっていると考えられる。主な保護対象種であるコマツガヤやオシラビソ、シラビソ等は、ニホンジカによる剥皮被害が散見されるものの、現在生育している立木については概ね健全に生育していた。
8	神奈川	丹沢山地	生物群集保護林	群集 7	880.85	5	○					○										○	○	○		植生調査による低木層の植被率がすべてのプロットで減少傾向にあり、ニホンジカによる採食圧が高くなっていると考えられる。主な保護対象種であるブナは、012-2では1本フラスが確認された。他のプロットに関しては高木層は老齢のブナが占めるが、概ね健全に生育していると評価された。
9		西丹沢ブナ	希少個体群保護林	希少 4 9	225.10	5	○					○										○	○	○		林床植生の植被率が前回調査と比較し、著しく低下しており、ニホンジカによる被害が拡大している。保護対象種であるブナは老齢の大径木のみ生育しており、次世代を担うブナの稚樹や実生はほぼ見受けられない。
10		西丹沢モミ	希少個体群保護林	希少 5 0	50.31	5	○					○										○	○	○		林床植生の植被率が前回調査と比較し、著しく低下しており、ニホンジカによる被害が拡大している。保護対象種であるモミは老齢の大径木のみ生育しており、次世代を担うモミの稚樹や実生はほぼ見受けられない。
11		箱根ヒメシヤラ・ハコネコムツツジ	希少個体群保護林	希少 5 1	150.03	5	○					○										○	○	○		上層を構成するヒメシヤラ及び岩角地に生育するハコネコムツツジ群落は概ね健全に生育していた。現時点では保護対象種への大きな被害は見られないが、全ての調査プロットにおいてニホンジカの痕跡(剥皮、食痕、糞等)が確認された。
12	中越	佐武流山周辺	生態系保護地域	生態 6	3,953.53	10	○					○										○				野生鳥獣による被害や病虫害等は見られず、良好な状態で維持されていると評価されるため、前回調査時同様に今後の変化の兆候に留意し、モニタリング調査を継続することが適当である。
13		小松原湿原	生物群集保護林	群集 8	1,498.84	10	○					○										○				本保護林を構成する主要な要素である湿原植生、ブナ群落、オシラビソ群落のいずれも特に問題となる変化は起こっておらず、健全に生育していた。なお、前回調査時同様に今後の変化の兆候に留意し、引き続きモニタリング調査を継続することが適当である。
14	中越	守門岳	生物群集保護林	群集 9	1,778.26	10	○					○	[一部資料]									○				今年度現地調査を実施した092-1～092-5については、問題となる鳥獣害や病虫害は確認されず、保護林内の主要な群落である自然低木群落及びブナ群落は健全に生育していると評価する。旧八十里越え(国道289号線)を利用しアクセスする091-1～091-3については、道が崩壊し到達不可であったため、資料調査や聞き取り調査を実施し、保護林の状況の把握を継続する。
15		雨生池アマゴイルリトンボ	希少個体群保護林	希少 5 2	12.75	10	○					○										○				アマゴイルリトンボの成虫の飛翔が確認されたのは、全9プロット中1プロットであったが、過年度調査と比較し、環境・構成種等に大きな変化は見られなかった。アマゴイルリトンボの生息適地は、飛翔空間があり、休息・場所が立体的に多い場所といわれているが、成虫が確認できたのは局地的であった。
16		笠堀カモシカ	希少個体群保護林	希少 5 3	5,267.41	10	[資料]	○	[資料]				○	[資料]								○				南側からのアクセス路である光明山・笠堀登山口については立ち入り規制が解除され次第、調査を実施する。 北側からのアクセス路である笠堀ダム旧管理道については、一部崩壊し、現在は使用していないことから、開通の見込みはないと考えられるため、今後も今年度と同様に新潟県三条地域振興局地域整備部ダム管理課等に聞き取り調査を実施し、文献調査の結果と併せて、保護林の状況の把握を実施していく。
17		榎橋ブナ遺伝資源	希少個体群保護林	希少 5 4	17.60	10	○					○										○				野生鳥獣による被害や病虫害等は見られず、良好な状態で維持されていると評価される。なお、前回調査時同様に今後の変化の兆候に留意し、引き続きモニタリング調査を継続することが適当である。

※5年の要素

ア：遷移の途中段階にある保護林

イ：復元を行っている保護林

ウ：保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

エ：保護林外部からの影響を受けている保護林

オ：鳥獣・病虫害被害が顕著にある保護林

カ：温暖化により影響が顕著にある保護林

キ：その他、短期間で大きな変化が想定される保護林